

春日部市への要望

春日部市教委の「令和8年度以降に中学一年生になる皆さんへ」によれば、

《令和10年度以降 「学校教育の中で、土日休日は部活動を実施しない」こととします。自分の趣味や習い事（教室）、クラブによるスポーツ・文化活動など、自由で多様な休日の過ごし方となります。》とある。

つまり、「土日休日は部活動はやらせない。生徒は好きに時間を過ごせ」ということらしい。

生徒たちは、部活動ができなくなって手にした時間をどのように過ごすか想定しているのだろうか。「家庭学習」や「家のお手伝い」なら素晴らしいことだ。現実には「スマホ依存症」「夜遊び」「不登校」「非行」といった言葉が頭をよぎる。

国は高邁な理念を述べている。部活動の地域展開により「生涯スポーツの基盤づくりといった視点で、子どもたちが生涯にわたってスポーツや文化を親しめる機会を作っていくということを学校と地域とで考えていく。」とのことだ。

しかし、地域展開は受け皿がないとうまくいかない。多くの自治体では、生徒たちを受け入れるために具体的な事業に取り組もうと思っても、技術的な問題（活動場所・指導者の確保・責任の所在など）がネックになって議論が進んでいない。土日休日の部活動の地域展開は将来像がみえず、相当難しいように思われる。

さらに国は、土日休日のみならず平日の部活動も学校でやらせない、つまり学校教育の場から部活動をなくす方針のようだ。これまで部活動は生徒を育てるための大切な要素だったのに、それを否定し厄介払いするかの扱いは嘆かわしい限りである。

春日部市はまず「中学生を大切に育てていく」という目標を設定してはいかがだろう。市内の中学校や各スポーツ団体には、「スポーツの価値を高めてそれを生徒たちに還元したい」という熱意をお持ちの方が多はずだ。

「春日部市」と「中学校」と「各スポーツ団体」は、この目標を共有し協力することができると思う。

市教委の役割は、この三者をとりまとめ、すべての中学生を大切に育てるための体制づくりを構築することだ。

2026/06/14 文責：石黒隆文